

18. 肉用子牛の発育改善と産地強化に向けた取り組み

中部振興局生産流通部¹⁾ 研究普及課²⁾

○藤田和男、植木節子¹⁾、太田正樹²⁾

平成20年度における子牛市場価格の大幅な下落は経営圧迫並びに意欲の減退を起こしている。管内子取り用繁殖雌牛飼養戸数254戸の平均年齢は65歳と高齢化が進むが、管内農業の中では依然として肉用牛の位置付けは高い。

こうした中、管内肉用子牛の発育を改善して市場評価、販売価格向上及び産地強化を図るため次の活動を行った。

○子牛マニュアル実践農家における実態把握と改善指導（理論と現場のすり合わせ）

【対象】 マニュアル実践多頭飼育農家2戸

【指導内容】

- ・飼養管理の実態把握
- ・月1回の体測実施による発育状況確認（体高、胸囲、腹囲）
- ・体測値と牛の状態、飼料給与状況を確認しながら検討・改善指導

○各種総会における啓蒙・啓発（意識付け）

【対象】 生産部会会員

【指導内容】

- ・市場の傾向として体重、日齢体重の大きいものほど価格が高いことを明示。
- ・自分らの地域の現状を明示。
- ・種雄牛の問題よりまずは発育改善が必要であることを意識付け。

○地区管理品評会における講習会の実施（理論付け）

【対象】 生産部会会員

【指導内容】

- ・購買者に好まれる牛作りの必要性。それがどのような牛か。
- ・体重、日齢体重の大きいものほど高く売れる傾向にある。
- ・そのためには、スターターを使い哺乳期をしっかり飼う。
- ・病気にさせない、観察を十分行い、早期治療。

○市場下見巡回等での個別巡回指導（理論に基づく実践指導）

【対象】 生産者個々

【指導内容】

- ・エサは何を、どれだけやっているか。
- ・飲水は十分か。
- ・牛舎環境はよいか。（乾燥、換気、エサ箱）